



# 発達障害って何だろう？

---

福井大学 子どものこころの発達研究センター  
福井大学医学部附属病院 子どものこころ診療部  
藤岡徹

2018年6月9日福井市子ども会育成連合会@AOSSA





- 自己紹介
- 発達障害について
- 対応の基本&気になる行動への対応
- 事例
- 最後に





# 発達障害ってなんだろう??



- 生まれつきの特性の結果、日常生活や社会生活、学業に困難が生じている状態のこと
- **しつけや関わり方により生じるものではない**
- 周りの人が関わり方(声かけの仕方など)を変えたり、支援・配慮をすること、本人が自分の特徴を理解して対応することで、困難を目立たなくさせることはできる





# 発達障害にふくまれる**主な**障害

- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動症 (ADHD)
- 限局性学習症
- 発達性協調運動症
  
- 知的能力障害





# 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder; ASD)

## • 対人関係の問題 → マイペース

→相手の顔や目を見ない

→他者への関心が低い時がある

→関わりが一方的

→言葉やジェスチャーの使い方/理解が独特

→会話が広がらない

→ジェスチャーの使い方/理解が独特

→想像することが苦手(そこに無いものを考えたり、

他者の立場に立ったり、省略された言葉を補うのが苦手)

→状況に合わせた行動(暗黙の了解の理解)が苦手





# 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder; ASD)

- **こだわり → 融通が利かなくてユニーク**
  - 同じ手順を好む(変化が嫌い)
  - 同じ行動をしたり同じことを言う
  - 柔軟に考えたり行動するのが苦手
  - 好きなもの(時には独特なもの)に非常に興味を示す
- **感覚の問題**
  - ある特定の音・匂い・感触(・味)に鈍感または敏感に反応しすぎる
  - ものを、独特な見方をする(すごく近くから見たり、など)





# 注意欠如多動症

(Attention Deficit Hyperactivity Disorder; ADHD)

- **注意力の問題：注意散漫と過集中が同時に存在**
  - 忘れ物が多い/忘れっぽい
  - 物を無くす/片付けられない
  - ケアレスミスが多い
  - 計画性に乏しい/計画を立てても守れない
  - 気が散りやすい(指示を聞き落す)
  - 頑張る必要があることに取り組めない
  - 過度に集中しすぎる





# 注意欠如多動症

(Attention Deficit Hyperactivity Disorder; ADHD)

- **多動性の問題:じっとできない**
  - 落ち着きがない(常に動いている)
  - 授業中に立ち歩く
  - しゃべりすぎる
  - 頭の中で常に何か考えている
- **衝動性の問題:待てない**
  - 待つことが苦手(順番が待てない)
  - 質問に出し抜けに答える
  - 邪魔をする
  - (→ 本当でないことを言ってしまう)







# 限局性学習症(学習障害)

(Specific Learning Disorders; SLD)

- 読み・書き・計算を、スムーズかつ正確にするのが難しい  
→ 全くできないわけではない、というところがポイント
- 「勉強ができない＝学習障害」ではない
- 重要なのは、情報を取り入れて、  
自分で考えて、それを表現すること  
→ 読み書き、自筆での計算に  
こだわらなくてもよい





# 重要だけどあまり言われたいこと

- 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症をはじめとした発達障害の特徴は、みんなが持っている
- 診断はその特徴で困っている時になされる  
⇒ 専門家からの「**みんな**で支援していきましょう」の合図である
- 「医療につながったらOK」ではない  
→ むしろ、家庭や地域(学校など)での対応が重要  
→ 処方是不安定なベースを整えるもので、  
環境調整(過ごしやすい状況を作ること)は必須





# 強弱があるなら、どこから障害なの？



このへんは？  
障害なの？

特性があまりない

特性が強い

- 明確な線を引くことはできません
- なぜなら、環境(状況、一緒にいる人、求められていること)によって、困難が生じるかどうかが変わってくるため  
→ 困難が小さければ「障害」という診断は必要ない  
(支援や配慮は必要かもしれないけど)





- 発達障害の特性は、強弱はあるにしろ、世の中の人全員が持っている特性の一つ
- その特性を、長所として活用できるよう状況（少なくとも困らない状況）を周囲が整えていく





- 自己紹介
- 発達障害について
- 対応の基本 & 気になる行動への対応
- 事例
- 最後に





# ASD(・ADHD)対応の基本

## ①視覚提示＝見える化

- イラストにしたり、文字にしたりして、“見せる“
- 口頭指示は覚えておく必要があるが、視覚指示は残り続ける
- これから実施すること(スケジュール)の視覚提示も重要

## ②省略せずに、理由とすることを具体的に伝える

- ×(食事のあとに)「そこ、適当にふいといて」
- ○「次の人が気持ちよく使うために、机の上を台拭きで2回拭いて」

## ③話をよく聞く (そして本人と一緒に対応策を考える)

- 行動には必ず理由があるので、それを“最後まで”聞く





# ADHD(・ASD)対応の基本

## ①注意を向けてもらう

- 注意がそれやすいので、名前を呼んだり、近くに行ってから話す
- 教室などで大人数に向けて話すとき、子どもが何かに集中しているときには重要になる

## ②指示を出して動いてもらう、休憩を入れる

- じっとしていたり、興味のあまり無い作業をし続けるのは苦手なので、途中でちょっとした休憩やリフレッシュを

## ③ご褒美の設定

- 「〇〇したら△△」とご褒美を設定する





# SLD対応の基本

## 読み書きについて

- ① ひらがなの定着→ぱっと見てわかる語句を増やす
- ② 漢字は「語呂合わせ」や「漢字パズル」で(反復練習以外の方法も)
- ③ 読み書きしやすい工夫(文節で分ける、読み仮名、文字やマスが大きくなる)
- ④ (支援)機器やアプリを使いこなす
- ⑤ 英語は、楽しく丁寧に音と文字をつなげていく

## 計算について

- ① 日常生活に結びつけながら(経験から学ぶ)
- ② 計算しやすい工夫
- ③ (支援)機器やアプリを使いこなす







# 気になる行動への対応

---

行動は

- ①行動の前のできごと
- ②行動
- ③行動の後のできごと

- この3つが1セットになっている。





# 気になる行動への対応

---

- 気になる行動そのもの（つまり、「②行動」のところ）に着目しがち

→でも、実は、

「行動の前」と「行動の後」

がとても大切。





# ①「行動の前のできごと」

- その行動は、  
「どんな時に起きやすいのか？」  
→場所、時間帯、周りにいる人、  
  
「それが起きるきっかけは何か？」  
→他の子におもちゃを取られた、  
課題ができなかった、課題が始まって1分経った、  
→何もすることがない(ただ待っているとき)





### ③「行動の後のできごと」

○ (本人にとって) 楽しかった、いいことが起こった  
(→ほめられたり、ご褒美をもらったりなど)  
→その行動を繰り返す



○ (本人にとって) つまらなかった、わるいことがおきた  
→その行動をしなくなる





# なぜ、「ほめる」なのか？

---

• 「ほめる」理由はなんなのか？

①子どもの自尊心の低下を防ぐ

②怒るだけでは、子どもは正しい行動

(どうするべきだったのか)が分からない

③罰はまねしてしまう

→「ほめて育てる」くらいの心意気で対応すると、  
ちょうどよいくらいの量になる



# 専門家の実施していること

- 望ましい行動が起こりやすくする
  - 気になる行動が起こりにくいようにする
- ①「行動の前のできごと」を変える
- 
- 望ましい行動/良いところをほめる
- ③「行動の後のできごと」を変える
- 望ましい行動の割合を増やして、  
気になる行動の割合を減らす





## ほめるのが難しいとき

- ①「ありがとう」「たすかった」「うれしい」という
  - お茶碗をさげてくれたら「ありがとう」「たすかった」「うれしい」
  - 係の仕事をしてくれたら「ありがとう」「たすかった」「うれしい」
- ②やっている(言っている)ことを口に出して言う
  - 宿題をしているときに「宿題してるんだね」
  - 「花の絵を描いた」言ったときに「花の絵を描いたんだね」
- ③何も言わずに(3分間)話を聞くでも

認められている、承認されている、自分の行動はこれでいいんだ  
と思ってもらうだけでも十分効果がある





## よくあるQ&A

---

Q ある子どもだけをほめるのは、不公平じゃないですか？

A みんなをほめれば公平になると思います。  
今回のお伝えした考え方は、みんなに有効です。  
つまり、ほめることはみんなに有効です。  
なので、みんなをほめればよいのだと思います。







## よくあるQ&A

---

Q 厳しくしないと、子どもは成長しないし、勝負事にも勝てないから、怒らないとだめでは？

A 成長に不可欠な負荷を与えることは、怒ることではありません。「怒ることは、精神的成長に必要なこと」ではありません。計画的に、冷静に、心身の成長に必要な負荷を必要なだけかけるのは良いと思います。





## よくあるQ&A

---

Q 子どもがいけないことをしたら、それは伝えないといけな  
いと思います。それでも怒ってはいけないのですか？

A 注意しましょう。

「注意＝怒る一負の感情」というイメージです。

たとえば、友達をたたいてしまったり、

ルールや決まりを守れなかったときには

それがいけないことで、どうすべきだったかを

冷静に伝えることは、問題はありません。





## よくあるQ&A

---

Q 発達障害の子が分かりやすい教え方を教えてください

A「発達障害の子にピンポイントで分かりやすい教え方」は  
ありません

発達障害特性のある子の分かりやすい方法は、  
みんなにとって分かりやすい方法です





- 自己紹介
- 発達障害について
- 対応の基本&気になる行動への対応
- 事例
- 最後に





# もしも、大きく困る事があったら

## 保護者の方

- 通学する学校や園の先生(担任の先生、特別支援の先生など)
- スクールカウンセラー、保育カウンセラー
- 特別支援学校の先生、
- 教育関連施設(福井県教育総合研究所、特別支援教育センター)
- 市町村関連(福井市では障害福祉課、総合福祉相談所、保健センターなど)
- 児童相談所に相談(子どものこと全般を相談できます)
- (色々試してみて専門機関を受診しようかな、と思ったら)専門医療機関

## 主に診断後

- 発達障害者支援センター(スクラム福井)、障害者職業センター
- 地域の相談支援事業所





# もしも、大きく困る事があったら

## 教職員の方

- 特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、保育カウンセラーに相談
- 保護者に相談  
しっかりと信頼関係を築いてから、「こういうところで気になるけど、家ではどうですか？」などと情報を共有  
→必要に応じて、保護者を經由して、関係機関に情報を提供
- 福井県教育総合研究所、特別支援教育センターに相談

## 地域の指導者の方

- 保護者に相談(詳細は上に同じ)

